

令和5年度
事業報告書

社会福祉法人 豊前市社会福祉協議会

令和5年度 事業報告

令和5年5月、新型コロナウイルスも感染症法上5類に位置づけられ、ようやく地域に活気がもどり始め、令和5年度の事業は予定していた全ての事業を終了することができました。

コロナ禍による「人と人との分断」は、人間関係の希薄化などをさらに加速させ、地域の中で孤立することによって起きる生活のしづらさが増え始めてきており、日ごろからの支え合いの仕組みづくりは、ますます重要になってきています。

コロナ禍より、地域の集う場所「いきいきサロン」は数か所が解散し、互いを支え合う地域力が弱まっています。また、地域で助け合うしくみづくりを進めている「生活支援体制整備事業」では、市内の多くの地域が「住民を支える担い手不足」の課題を抱えていることが分かりました。この不景気を受け、「減収や失業による生活困窮世帯の増加」など新たな地域生活課題への対応が今まで以上に求められています。

本会の地域福祉活動はこのような情勢をうけ、皆様からのさまざまなご相談に応じてきたほか、高齢者や障がいのある方々の仲間づくりや見守り活動の推進、ボランティアの育成、介護予防への取り組み、地域の福祉組織の活動支援や福祉教育などを通じて、心かよう地域づくりを市民の皆様とともに進めてまいりました。

これまで社協の使命でもある「ともに生きる豊かな地域社会」づくりに向け、各事業を実施してきましたが、さらに地域課題に向け各事業や活動及びネットワークの連携を一層強めながら支援の効果を高めていきます。

以下、令和5年度事業の実施状況についてご報告します。

1. 高齢者福祉事業

豊前市の高齢化率（総人口に占める 65 歳以上人口の割合）は、令和 6 年 3 月には 37.78% となり毎年上昇しています。一方、高齢化率は上昇しているものの 65 歳以上の人口は、平成 30 年 6 月の 9,153 人をピークに減少傾向で、令和 6 年 3 月末で、8,915 人となりました。

人口が減少し、高齢者が占める割合が高いということは、65 歳以下の若い世代の人口減少が大きいということになります。地域を担う若い世代が減少している中において、高齢者自身が生涯元気で住み慣れた地域で暮らしていくことができる地域を目指し、地域のつながりづくりやリーダー養成、高齢者実態調査などを行いました。

●家族介護を考える集い「介護者のつどい」⇒参加者延べ 96 名

⇒家族介護者の孤立防止と介護者同士の交流を支援する、介護教室を企画し介護者のリフレッシュや情報交換を行いました。

①介護教室（3 回）

⇒口腔ケア、介護者のための健康教室

②リフレッシュ事業（7 回）

⇒介護者バスハイク（別府市）、落語鑑賞、レクリエーション

③介護者同士の情報交換（8 回）

⇒これからの社会と健康寿命、豊前市の相談窓口について、暮らしの中にある気になること

●いきいきサロン事業 ⇒34 か所設置（市内行政区の 50.4%で設置）

（延べ開催回数 335 回 延べ参加者 4,551 名）

⇒高齢者が集い、語らえる場づくり、閉じこもり防止、認知症予防、希薄になった地域のつながりづくりを目的に推進しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を自粛するサロンもありましたが、感染予防に注意しながら 30 か所（サロン全体の 88%）のいきいきサロンが開催されました。

●いきいきサロン事業「健康質問票（アンケート調査）」の実施

34 サロンの内、27 サロンで実施（回答者 733 名）

⇒いきいきサロン利用者を対象に、高齢者の特性を踏まえた健康状態を総合的に把握するため、質問票(15 項目)を用いたアンケート調査を実施しました。半年ごとの追跡調査を実施し、高齢者のフレイル（加齢により体力や気力が弱

まっている状態)に対する関心を高め、生活改善を促すとともに、必要な保健・医療・福祉事業につなげていく目的で調査を行ないました。

●男塾⇒(男性のための社会参加事業)

男の料理教室(全18回〔内視察研修1回含む〕)⇒受講生19名 延べ294名

- ・妻が疾病、その他の事情により料理をすることが困難になったときのため、また男女共同参画推進という観点から引き続き男性を対象とした料理教室を実施しました。
- ・ボランティア活動として、市内の学童保育を利用している児童へお菓子を作り、プレゼントしました。

●80歳以上一人暮らし高齢者へ見守り活動(12月中旬) ⇒708名

⇒豊前市民生委員児童委員協議会が主体となり、80歳以上の一人暮らし高齢者へ年末の安否確認、見守り活動を行いました。

岩屋	合河	横武	千束	黒土	三毛門	角田	山田	宇島	八屋
13	25	37	85	54	92	76	55	109	162

●高齢者実態調査

⇒1年をかけ豊前市内の全ての65歳以上独居、65歳以上高齢者のみ世帯を調査し、緊急時の連絡先や健康状態の把握を目的に個々のデータ化を行いました。なお、個々のデータ化の登録については本人の同意が必要となります。

①一人暮らし高齢者 2,869名

(個人情報登録者:677名(内実調査対象者1,815名の登録率37.3%))

②高齢者世帯 1,813世帯

(個人情報登録世帯:327世帯(内実調査対象世帯1,675世帯の登録率19.5%))

●生活支援体制整備事業〔生活支援コーディネーター事業〕

⇒団塊の世代が75歳以上となる令和7(2025)年に向け、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるようにするため、介護だけではなく、医療や予防、生活支援、住まいを包括的に提供する地域包括ケアシステムの構築が重要な課題となっています。

この事業では、生活支援コーディネーターを配置し、生活支援の担い手の養成、社会資源の調査開発、関係機関との連携等を行いました。

分野		事業名	内 容	回数
介護予防事業	寄り合いの場ネットワーク	寄り合いの場グループの代表者会議	寄り合いの場グループ代表者による会議（情報交換）	1
		寄り合いの場調査（発掘）	豊前市全域を対象とした寄合の場を調査	3
	生きがいづくり（生涯現役）	高齢者による趣味や特技を活かしたボランティア活動の推進	ボランティアセンターと連携をおこない、ボランティア活動を通して介護予防（社会参加）につなげるしくみづくりを整理する	3
	認知症地域支援事業	認知症地域支援チームの発足	認知症に關する施設を対象に協力依頼 認知症地域支援チーム第1回会議開催（発足）	1
		認知症高齢者見守り声かけ訓練のプログラム作成会議	訓練のプログラムを見直し、新しいプログラムを関係機関と協働で作成。次年度より、毎年一を指定し訓練を実施する	2
生活支援事業	買物弱者対策	移動販売業者の調査	4事業者を調査、買物支援事業に協力を頂く	16
		情報発信	移動販売業者の紹介チラシを作成。地域づくり協議会・民生委員等に配布	
	くらしの困りごと対策	くらしのサポーターフォローアップ研修	講師に臨床心理士の方を招き、コミュニケーション力向上を目的とした研修会を開催	1
		「くらサポミーティング」の開催	登録サポーターのミーティング（会議）を実施 利用者の報告や活動計画を協議する	12
	孤独死・孤立死防止対策	民間企業による見守りネットワークの構築	豊前市と見守り支援協定を締結した業者を中心に、高齢者見守りネットワークを発足（6社が登録）	1
		企業を対象とした認知症サポーター養成講座の推進	4社が認知症サポーター養成講座社員研修に導入する	3
他機関連携（ネットワーク）	ネットワークの構築	地域ケア個別会議（第1層協議体）	助言者として地域資源（社会資源）等の情報提供をおこなう	12
		地域ケア推進会議（第1層協議体）	関係機関と地域課題をテーマとした協議（グループワーク）	1
		豊前市生活支援コーディネーター連絡会（ベース会議）	各地区別の状況確認や取り組みの進捗状況等の報告	8
		生活課題対策会議の開催	各地区別の状況確認や取り組みの進捗状況等の報告	3
		介護予防推進会議の開催【新規】	各地区別の状況確認や取り組みの進捗状況等の報告	2
		認知症地域支援推進員会議	各地区別の状況確認や取り組みの進捗状況等の報告	2

第二層 (地区別の取組み)	事業内容	
	会議・打合せ (相談)	地域づくり協議会役員会・部会会議
		区長会
		三毛門地区福祉ネットワーク会議
		民生委員児童委員定例会
		公民館長との打ち合わせ
	事業開催 (講座・座談会・講師)	地区座談会(井戸端会議) 上塔田区、挾間区、三毛門団地区、大村谷区
		三毛門地区福祉ネットワーク防災ワークショップ
	事業参加・共同事業	地域づくり協議会健康講座
	寄り合いの場の参加	いきいきサロン
		つながりリスト更新調査
		地縁団体会議
	その他	行政・地元福祉施設・業者・個人等の打ち合わせ

●くらしのサポータースキルアップ研修会 ⇒参加者 15 名

- テーマ「接し方上手になろう」 講師 臨床心理士 井料美輝子氏

●市内地区最高齢者の表彰 ⇒地区最高齢者 11 名(その他福祉施設等最高齢者 8 名)
⇒敬老の日に併せ、市内各地区の最高齢者を「多年にわたり社会に尽くしてこられたことを敬愛し長寿を祝う」目的で表彰をいたしました。

●地区老人クラブ活動支援事業⇒61 単位老人クラブ

⇒年度末(令和 6 年 3 月)に各単位老人クラブが作成する事業実績、会計報告及び事業計画の書類作成支援や助言を行いました。

●老人クラブへの支援

2. 障害者福祉事業

ボランティアグループやボランティアと協働し、障害をもつ方への情報提供や社会参加を支援するための事業を展開しました。

●音声訳奉仕員養成講座(全 10 回)⇒延べ受講生 67 名

⇒活字や図などの情報を音声に換え、視覚障害をもたれる方へ声の情報を提供する人材を養成しました。

- 声の広報（CD に音声で情報吹込み）（毎月） ⇒利用者 11 名
⇒視力障害者などに音声訳ボランティアの協力を得て「市報・市議会だより・社協だより」の活字などを音声に換え 吹き込んだ CD を配布しました。
- 障害者スポーツ教室事業（12 回／年） ⇒延べ 160 名 ボランティア延べ 25 名
⇒障害をもつ方々が新しいスポーツにふれあう機会をつくり、普及させることを目的に、障害者スポーツ（ボッチャ、卓球バレー、バトミントン、レクリエーション）を開催しました。
- 障害者福祉施設、相談機関との連携と協力
- 障害者団体への支援
- 小規模共同作業所への支援

3. 児童・青少年福祉事業

児童・青少年へ福祉教育を推進し、将来の福祉を担う世代に「福祉の心を育む」ことを目的に事業展開を行いました。

- 福祉教育推進事業（県立青豊高校と連携） ⇒延べ 8 回 延べ生徒数 111 名
⇒青豊高校の授業「生活と福祉」、「ボランティア入門」の外部講師を依頼され、福祉の視点から地域や社会の課題等についての授業を行いました。

■科目「生活と福祉」

	期日	講話・体験テーマ	講師
1	10 月 26 日	地域包括ケアシステムや生活支援コーディネーターの役割について 地域での支え合いについて	豊前市社会福祉協議会

■科目「ボランティア入門」

	期日	講話・体験テーマ	講師
1	6 月 20 日	はじめに	豊前市社会福祉協議会
2	7 月 4 日	地域で活躍する人たちの話を聞いてみよう①	音声訳ボランティアの会こだま 代表 山本めぐみ氏 手話の会ひなたぼっこ
3	7 月 18 日	認知症サポーター養成講座	豊前市地域包括支援センター
4	9 月 5 日	ボランティア活動体験①計画作成	いきいきサロン 代表上野利香氏
5	9 月 19 日	ボランティア活動体験②実践 (高齢者向けスマホ体験)	地域住民 5 名 豊前市社会福祉協議会

6	10月17日	対話を通じたコミュニケーション	たいわーず
7	11月7日	地域で活躍する人たちの話を聞いてみよう② まとめ	NPO法人平和の種 代表理事 恒遠樹人 豊前市社会福祉協議会

- 福祉教育の推進（福祉体験学習）⇒小・中学校延べ38回、体験者数781名
⇒市内小、中学校より高齢者・障害者体験学習（車いす、アイマスク、障害者スポーツ、高齢者疑似体験など）の依頼に、本会職員や障害をもつ当事者の協力をいただき、地域でともに生きる力と思いやりの心を育むことを目的に福祉体験学習を行いました。

小学校	【車椅子体験学習】	9校	延べ10回	延べ児童数188名
小学校	【アイマスク体験学習】	3校	延べ4回	延べ児童数76名
小学校	【福祉体験授業事前学習】	1校	延べ1回	延べ児童数5名
小学校	【福祉体験授業事後学習】	2校	延べ2回	延べ児童数33名
小中学校	【高齢者疑似体験学習】	9校	延べ12回	延べ生徒数299名
小中学校	【障害者スポーツ体験】	9校	延べ9回	延べ生徒数180名

4. 母子父子福祉事業

経済的な負担を極力かけない参加負担金で親子の思い出づくりを支援するため事業や学習支援へ助成を実施しました。

- 母子父子親子ふれあいバスハイク ⇒（10月21日 参加者33名）
⇒親子の思い出づくりを目的に、母子世帯、父子世帯の親子を対象に日帰り旅行を実施しました。親子のふれあいや思い出づくりとして、「グリーンランド【遊園地】（熊本県荒尾市）」を企画しました。
なお、コロナウイルス感染症も落ち着いてきたので、通常の募集定員で開催いたしました。

- 母子寡婦福祉会への支援

- 母子世帯の子どもを対象とした学習支援事業へ助成

5. 総合的福祉事業

広報や講座などの総合的福祉推進と併せ、何らかの影響により生活が行き詰まり、困った方々へ安定した生活を営むための援助や支援を行いました。

●社協だよりの発行【12回／年】

⇒身近な福祉情報やボランティア情報等の情報提供を毎月発行しました。

●ホームページにて情報提供（併せて SNS で情報発信 ⇒Facebook、Instagram）

⇒本会の法人情報、事業情報を多くの方にインターネットサービスを活用し、福祉の情報や法人情報を公開して適切な広報活動を行いました。

■ ホームページアドレス <https://buzen-shakyo.net>

●生活福祉資金の相談及び貸付

⇒低所得者、障害者、高齢者に対し、資金の貸付と必要な援助、指導を行い自立支援と生活意欲の助長促進を図り、安定した生活が送れるよう相談と貸付支援をしました。

◆貸付件数 ⇒緊急小口資金 8件
福祉資金 1件
教育支援資金 8件

●生活困窮者自立相談支援事業

- 自立相談事業 ⇒新規相談者 51 名 年間延べ相談数 ⇒418 件
- 家計改善支援事業 ⇒新規相談者 10 名

⇒経済的に困難な状況にあり、最低限度の生活の維持が難しくなりそうな方の相談を受け、問題の整理を行い解決への道筋を一緒に考え、生活困窮状態から自立できるよう支援を行いました。

また、現在の困窮状態で何に課題があるのか家計表などを用いて「見える化」をし、相談者の家計管理の意欲や能力を高め、早期の生活再建を支援しました。

■月別相談件数（令和5年度、延べ相談件数のほか、年度以前の継続相談含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
継続相談	23	13	23	43	36	7	9	10	19	22	10	19	234
R5 年度	6	8	9	7	10	8	20	29	11	14	36	26	184
合計件数	29	21	32	50	46	15	29	39	30	36	46	45	418

■相談内容別件数

区分	内 容	延べ件数	内容順位
①	病気や健康、障害のこと	8 5	
②	住まいについて	9 1	5 位
③	収入・生活費のこと	2 6 3	1 位
④	家賃やローン支払いのこと	1 9 9	2 位
⑤	税金や公共料金等の支払いについて	7 4	
⑥	債務について	7 2	
⑦	仕事探し、就職について	1 1 7	4 位
⑧	仕事上の不安やトラブル	5 8	
⑨	地域との関係について	2	
⑩	家族との関係について	3 9	
⑪	子育てのこと	3 2	
⑫	介護のこと	0	
⑬	引きこもり・不登校	5	
⑭	DV・虐待	0	
⑮	食べるものがない	1 1 9	3 位
⑯	その他（各制度の申請など）	8 4	
	延べ合計件数	1,240	

■年代別男女比（新規相談者）

年代	合計件数		男		女	
10 代	0	0%	0	0%	0	0%
20 代	4	8%	2	7%	2	9%
30 代	6	11%	4	14%	2	9%
40 代	1 6	32%	7	25%	9	38%
50 代	6	11%	4	14%	2	9%
60 代	5	10%	3	11%	2	9%
70 代	8	16%	5	18%	3	13%
80 代	3	6%	1	4%	2	9%
90 代	1	2%	0	0%	1	4%
不明	2	4%	2	7%	0	0%
合計	5 1	100%	2 8	100%	2 3	100%

●住居確保給付金の申請手続き ⇒申請者 3 名

⇒離職、自営業の廃業、またはこれらと同等の状況に陥ったことにより、経済的に困窮し、住居を喪失した方又は住居を喪失するおそれのある方を対象に、家賃相当額（上限あり）の給付申請手続きを行いました。

- フードバンク事業〔住民からいただいた余剰食料の備蓄と支援〕支援延べ 51 回
⇒困窮した方が、就職が決定し給料をもらうまでや制度の支援決定までの間など、金銭的に余裕がなく食べることも十分できない方へ食料支援を行いました。
なお、支援に使用した食料については、住民よりご寄贈いただいた食料を有効に活用させていただきました。

◆フードバンク（食料備蓄）支援

支援内容（食料支援）	支援回数		
◆フードバンク（食糧支援） 米⇒合計 141 kg（玄米、白米）、 防災食白飯、アルファ米（エビピラフ、炊き込みご飯）、丸餅、袋ラーメン、カップラーメン、そうめん、乾麺（うどん）、うどん、カレーうどん、そば、味付け海苔、焼き海苔、雑炊の素、のり佃煮、のり茶漬け、釜めしの素、マカロニグラタン、ふりかけ、塩こんぶ レトルト（肉じゃが、ハンバーグ、シチュー、カレー、親子丼、中華丼、ごぼう牛肉、鮭の塩焼き、さばの煮つけ、竹の子、肉じゃが、豚の角煮、牛丼の具、筑前煮、ハヤシシチュー、千切り大根、大根煮、照り焼きチキン、おでん、ミートボール、きんぴらごぼう） 缶詰（カニ缶、さんま煮缶、さばの味噌煮、さば水煮缶、焼き鳥塩缶、いわし味噌煮缶、いわし蒲焼缶、つくね缶、シーチキン缶、フルーツ缶、ラフティ）、卵スープ、コーンスープ、コーンポタージュ、みそ汁、ワンタンスープ、吸い物 水、お茶、緑茶、お茶ティーパック、缶コーヒー、アクエリ阿斯、栄養ドリンク、ウィーダーinゼリー、しゅうゆ、マヨネーズ、油 お菓子、ようかん、茎わかめ、ホットケーキミックス ◆フードバンク以外 洗濯洗剤、箱ティッシュ、シャンプー、ガスボンベ、テレホンカード	4 月	5 月	6 月
	6 回	2 回	4 回
	7 月	8 月	9 月
	11 回	2 回	2 回
	10 月	11 月	12 月
	7 回	4 回	1 回
	1 月	2 月	3 月
	6 回	4 回	2 回
支援合計 51 回 (支援者 25 人)			

- 日常生活自立支援事業⇒契約者 2 名
⇒認知症や知的障害、精神障害のある方で、日常的に福祉サービスの利用や日常的金銭管理で困っている方に金銭の入出金や支払いの代行支援を行いました。

- 車いす、歩行器の無料貸出し⇒100件（内歩行器は2件）
- スポーツ用具、レクリエーション用具の無料貸出し⇒205件
- 民生委員児童委員との連携、協働

6. ボランティア活動育成事業

豊前市では、地域コミュニティを構成する様々な主体が連携・協働しながら、地域を担うボランティア人材を持続的に育成し、「相互扶助」の観点からボランティアの活動の支援を積極的に行い、ボランティア活動しやすい環境や条件整備を充実してきました。

●コーディネート事業

ボランティアセンター登録数（令和6年3月31日現在）

種別	団体数	人数
テーマ型ボランティアグループ	33	427
芸能ボランティアグループ	8	94
社会福祉協議会事業協力ボランティア		15
個人登録		10
合計	41	546

●ボランティアに関する相談・助言、情報収集・整理

- ボランティアグループ活動依頼相談 32件（依頼成立30件）
 - ・依頼成立（主な活動先 小中学校・学童保育・いきいきサロン・デイサービス）
- ボランティア活動希望相談 9件
 - ・社協の募集するボランティア活動への相談・・・2件
 - ・ボランティアグループへの加入に関する相談・・・2件
 - ・個人登録に関する相談・・・・・・・・・・・・・・1件
 - ・その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4件
- その他の相談 30件
 - ・ボランティアセンター新規登録に関する相談・・・3件
 - ・ボランティアグループの活動についての相談・・・3件
 - ・寄附（物品）に関する相談・・・・・・・・・・・・・・2件
 - ・その他相談・助言など・・・・・・・・・・・・・・22件

- 登録グループの活動に関する情報収集⇒ 活動訪問12回

●ボランティア活動保険の加入手続きと保険の助成（1人当たり100円助成）

- ボランティアの保険加入 加入者数⇒284名
- ボランティア保険助成 助成数 ⇒248名

●ボランティア活動助成金の交付

- 交付団体数 26団体〔内訳〕
 - ・一般（テーマ型）ボランティア 17団体
 - ・学校読み聞かせボランティア 5団体
 - ・芸能ボランティア 4団体

●ボランティア室の貸出実績（無料）

- 定期利用10グループ
- ボランティア室稼働率 37%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
午前	9	9	14	4	6	9	14	10	10	10	8	8	111
午後	8	6	15	2	7	11	7	11	9	9	5	4	94
夜間	10	9	11	3	9	9	9	8	8	9	10	10	105
合計	27	24	40	9	22	29	30	29	27	28	23	22	310
利用 可能数	74	76	76	27	78	75	77	74	70	70	72	76	845

●活動グループ同士の交流・ネットワーク形成の支援

- 芸能ボランティアグループ代表者会議 ⇒参加団体2団体
- テーマ型ボランティアグループ代表者会議 ⇒参加団体17団体
- 学校読み聞かせボランティアグループ代表者会議 ⇒参加団体5団体
- NPO、施設登録担当者会議 ⇒参加施設5施設

●ホームレス支援事業（夏物35名、冬物60名より寄贈）

（NPO法人抱樸「旧名称 北九州ホームレス支援機構」と連携）

⇒夏物、冬物2回に分け、市内住民へホームレス支援物品を募集しました。

皆様よりいただいた支援物品をNPO法人抱樸へ寄贈し、ホームレスの方々に役立てていただくようお届けしました。

●ボランティア育成事業

- 入門講座・スキルアップ講座の開催

【今年度 当会主催の講座・講演会参加人数】

対象	今年度参加総数（延べ人数）	新規参加者
一般	246 名	53 名
高校生	39 名	39 名

●生涯現役・男のボランティア講座 おやじカフェ

- 第1弾 森林セラピー（全1回）⇒参加者 3名
- 第2弾 スイーツ教室（全1回）⇒参加者 10名

●ボランティア入門講座 ⇒参加者 69 名

- テーマ「人生を楽しく生きるヒント～難病とともに生きる～」
- 講師：株式会社 PLS 代表取締役 落水洋介 氏

●親子防災教室⇒参加者 豊前市内小学生とその保護者 11 組（31 名）

⇒親子の防災意識を高めるきっかけづくりとして実施しました。

講師 豊前市防災士会

●夏休みボランティア体験（高校生対象）

若い世代にボランティア活動を知ってもらう「きっかけ」づくりとして、高校生を対象に体験プログラムを実施しました。ボランティア体験を通じて、ボランティアについての理解を深め、活動参加推進につなげる目的で開催いたしました。

※参加人数：39 名（延べ人数）

- ・青豊高等学校 29 名
- ・東九州龍谷高等学校 6 名
- ・築上西高等学校 4 名

	プログラム	概要	実施日	参加人数	募集対象
豊前市立図書館	①「本のテラー」本の装備体験	ブッカー装備の体験	7月31日	10	青豊高校・その他の高校
	②展示コーナーの選書・ポップ作り体験	中高生向け本の展示コーナーの選書・ポップ制作	8月7日	5	
周防学園	①みんなで作ろう～うちわづくり	利用者と一緒にうちわ作り	7月27日	0	青豊高校

	②納涼祭	夏祭りのサポート	8月3日	3	
恵光園	①馬たちとのふれあい	乗馬療法の中で馬や小動物のお世話、環境整備の手伝い（ヒポクラブ）	7月22日 8月4日 8月18日	9	青豊高校
	②夏まつりでお店屋さんになろう	ゲームコーナーを担当し子ども達と交流（こどもの家）	8月7日 8月8日	2	
社会福祉協議会	①障害者スポーツサポートボランティア体験学習	障害者スポーツの体験・教室の手伝い	8月9日 8月13日	2	青豊高校・その他の高校
	②親子ぼうさい教室 de ボランティア体験	親子ぼうさい教室のサポート	8月17日 8月19日	0	
	③わくわく子育て！応援ボランティア体験 お店屋さんごっこ	子育て支援センターたけのこへ来館される親子のサポート	7月26日	4	
	①わくわく子育て！応援ボランティア体験 水遊び	子育て支援センターたけのこへ来館される親子のサポート	8月4日	2	
	②わくわく子育て！応援ボランティア体験 夏祭り	子育て支援センターたけのこへ来館される親子のサポート	8月5日	2	

●ボランティアのつどい（全グループ）（参加者：59名）

「認知症を知る！～認知症になっても安心して暮らせるまちにするために私たちにできること～」

講師：社会福祉法人みのり会 安雲拓心苑 施設長 井上浩明 氏

●読書ボランティアグループのつどい（参加団体：7名【5団体】）

読み聞かせボランティアグループ代表者会議後、読書ボランティア連絡会が情報交換会を実施しました。

●福祉教育推進事業

【小学校】

- ①小学校福祉教育推進校連絡会の開催
- ②福祉体験学習の実施
- ③福祉教育教材「ともに生きる」

⇒市内小学校 10 校の 4 年生もしくは 3 年生全員に配布)

【中学校】

- ①中学校福祉教育推進校連絡会の開催
- ②福祉体験学習の実施

【高校】

- ①授業の実施

(詳しくは、

3. 児童・青少年福祉事業

をご覧ください)

●ボランティア広報事業

●ボランティアガイド作成、配布

仕様	発行部数	紹介グループ数
A 4 冊子カラー 27 ページ	500 部	ボランティアグループ (37) 施設 (3) 社会福祉協議会事業 (2)

●社協だよりにて情報発信

- ・ボランティアグループの活動紹介
- ・ボランティアグループ主催のイベント、研修などの告知
- ・ボランティアセンター主催の講座の案内
- ・福祉教育実践報告

●ホームページ・SNS での情報発信

- 社会福祉協議会ホームページにて情報発信
- インスタグラム・facebook 公式アカウントにて情報発信(令和 4 年 8 月より)
 - ・ボランティアグループの活動の様子
 - ・福祉体験授業の様子
 - ・社協主催の事業に関する内容
 - ・その他 (必要に応じて周知すべき情報)

●介護保険証交付説明会にて、対象者へ啓発チラシを配布（毎月 1 回）

日 付	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配布数	27	20	24	18	14	22	28	23	27	37	25	31	296

●成人式にて、「今こそボランティア」啓発チラシを配布（令和 6 年 1 月 6 日）

・配布数：250 枚

●青豊高等学校にて「今こそボランティア」啓発チラシ配布

（令和 6 年 2 月 21 日献血実施に合わせて）配布数：40 枚